



尾形的

1都1道2府43県〇一期一景

第二十六章

Golden Time

photo: Masashige Ogata, writing & layout: Misao Ogata



シーンごとに様々な「風景」がそこにある。

ネオンが散りばめられた夜景。一点の曇りもない澄みきった青空。どこまでも広がる美しい星空。車の窓越しを流れてゆく街並み。昇り始めた陽の光が徐々に光を増し、すべてが動きだそうとする早朝。

当たり前のように存在する「風景」が特別なものに感じられる瞬間、人は、自分や自分以外の人も優しくなれる気がする。

「この夕焼けの時間帯って好きだな」。

独り言のように夫が呟いた。沈んでゆく太陽は、朝陽とはまた違う光のグラデーションを描いている。とても優しく、暖かな光だ。

「沈む」という感じがどこか寂しげで、私は陽が昇る時の力強さの方が好きなのだが…。優しく暖かな夕日の光に包まれていると、子供の頃大好きだった（結構使い込んでいてヨレヨレなんだけど、なかなか手放せなかった）タオルケットに包まれているような、懐かしい心地良さにホッとしている自分に気づく。忙しさに翻弄されギスギスしていた心が、スーッと融かされてゆく。

静かに佇む私たちは、すでにこの風景の一部となっていた。難しいことなど考えず、ただ笑いたい時に笑っていたあの頃…泥だらけになりながら、夕焼けを背に家路へ向かう子供の頃のことを思い出しながら…。

山の向こうに陽が沈むと、辺りが一段と暗さを増した。と同時に、私たちは顔を見合わせながらちょっと照れ笑いを浮かべ、車へと歩き始めた。私の手は、しっかりと夫の右手とつながれていた。

Profile

尾形正茂 株式会社シェルパの代表であり、カメラマンとして広告や雑誌の他、CDジャケットやグラビアなどに携わり日々格闘中。

尾形 操 平成17年よりフリーとして独立。現在はMacによる広告などのレイアウト・デザインに携わり日々格闘中。

シェルパホームページ

▶ <http://www.sherpa-jp.com>